古文単語　敬語から主語を読む ④

高校／丁寧語・二方面の敬語もふくめて敬意の向きを決める

名前 ＿＿＿＿＿＿＿＿

日付 ＿＿＿＿＿＿＿＿

尊敬語は「動作をする人」へ、謙譲語は「動作を受ける人」へ敬意を向ける。
丁寧語は、話し手から聞き手への敬意。動作をする人の欄には「ー」と書く。
この枚の敬語はすべて会話文なので、敬意は話し手から向かう。人は記号で答える。
表に、――線①～⑧の敬語の種類（尊敬・謙譲・丁寧）、動作をする人、敬意の向き（だれから→だれへ）を書く。

人物の記号　ア 翁　イ かぐや姫　ウ 五人の求婚者　エ 聖海上人（高僧）　オ 神官

（A）場面　翁が、かぐや姫に、五人の求婚者のだれかと結婚するようすすめている。会話は翁→かぐや姫→翁の順に進む。

「翁年七十に余りぬ。今日とも明日とも知らず。この世の人は、男は女にあふことをす。女は男に合ふことをす。その後なん門も広くなり①侍る。いかでかさる事なくてはおはしまさん。」かぐや姫のいはく、「なでふさることかし②はべらん。」といへば、「変化の人といふとも、女の身もち③たまへり。翁のあらん限は、……一人々々にあひ④奉り⑤たまひね。」（竹取物語）

（B）場面　聖海上人は、神社の獅子（こまいぬ）の向きを珍しがり、神官にわけをたずねる。

おとなしく物知りぬべき顔したる神官をよびて、「この御社の獅子の立てられやう、定めてならひあることに⑥はべらむ。ちと⑦承らばや。」といはれければ、「そのことに⑧候。……」とて、（徒然草）

問1

	種類	動作をする人	敬意（から）		敬意（へ）
① 侍る				→	
② はべら				→	
③ たまへ				→	
④ 奉り				→	
⑤ たまひ				→	
⑥ はべら				→	
⑦ 承ら				→	
⑧ 候				→	

問2　④「奉り」と⑤「たまひ」は、「あふ」という一つの動作に付いた2つの敬語（二方面への敬語）。それぞれだれへの敬意か、手がかりといっしょに書きなさい。

④

⑤

いちごドリル プリント

つづきの無料プリント
「古文単語プリント」のプリント一覧がひらきます

古文単語　敬語から主語を読む　④【こたえ】

名前 ＿＿＿＿＿＿＿＿

高校／丁寧語・二方面の敬語もふくめて敬意の向きを決める　　日付 ＿＿＿＿＿＿＿＿

赤い字がこたえです。丁寧語の動作をする人の欄は「ー」です。
④と⑤は一つの動作に付いた2つの敬語（二方面への敬語）です。敬意の向かう先がちがいます。

人物の記号　ア　翁　　イ　かぐや姫　　ウ　五人の求婚者　　エ　聖海上人（高僧）　　オ　神官

（A）場面　翁が、かぐや姫に、五人の求婚者のだれかと結婚するようすすめている。会話は翁→かぐや姫→翁の順に進む。

「翁年七十に余りぬ。今日とも明日とも知らず。この世の人は、男は女にあふことをす。女は男に合ふことをす。その後なん門も広くなり①侍る。いかでかさる事なくてはおはしまさん。」かぐや姫のいはく、「なでふさることかし②はべらん。」といへば、「変化の人といふとも、女の身もち③たまへり。翁のあらん限は、……一人々々にあひ④奉り⑤たまひね。」（竹取物語）

（B）場面　聖海上人は、神社の獅子（こまいぬ）の向きを珍しがり、神官にわけをたずねる。

おとなしく物知りぬべき顔したる神官をよびて、「この御社の獅子の立てられやう、定めてならひあることに⑥はべらむ。ちと⑦承らばや。」といはれければ、「そのことに⑧候。……」とて、（徒然草）

問1

	種類	動作をする人	敬意（から）		敬意（へ）
① 侍る	丁寧	ー	ア	→	イ
② はべら	丁寧	ー	イ	→	ア
③ たまへ	尊敬	イ	ア	→	イ
④ 奉り	謙譲	イ	ア	→	ウ
⑤ たまひ	尊敬	イ	ア	→	イ
⑥ はべら	丁寧	ー	エ	→	オ
⑦ 承ら	謙譲	エ	エ	→	オ
⑧ 候	丁寧	ー	オ	→	エ

問2　④「奉り」と⑤「たまひ」は、「あふ」という一つの動作に付いた2つの敬語（二方面への敬語）。それぞれだれへの敬意か、手がかりといっしょに書きなさい。

④ 「一人々々に」と、動作を受ける相手が書かれている→謙譲語。受け手の五人の求婚者（ウ）への敬意

⑤ あふのは、すすめられているかぐや姫自身→尊敬語。動作をするかぐや姫（イ）への敬意

・尊敬語（③⑤）は動作をする人へ、謙譲語（④⑦）は動作を受ける人へ敬意が向かう。
・丁寧語（①②⑥⑧）は、動作をする人でも受ける人でもなく、聞き手に敬意が向かう。
・動詞の下に付く「たまふ」（③⑤）は補助動詞（尊敬）。
・侍り・候は「ございます」の意なら丁寧語（「お仕えする」の意なら謙譲語）。①②⑥⑧は「ございます」の意で丁寧語。